

ガスクリーンフィルターの交換方法

交換に先立って、必要に応じて対象装置(GC)の電源を切っておくことをお勧めします。
また、交換するガス配管の圧力を、圧力ゲージの最小目盛り程度(0.1MPa)に下げしておくこともおすすめします。
圧を下げなくとも、交換は可能ですが、フィルター交換の際にフィルターを押し返す力が強くなり、リングの締めが甘くなり、リークしやすくなります。
交換の際は、ごく微量のガスが排出される事もございますので、換気の良い状態での作業をおすすめいたします。

- 1) 新しいフィルターを準備します。アルミの袋からフィルターを取り出し、2個のアルミの保護キャップを外しておきます(外しても気密は保たれます)



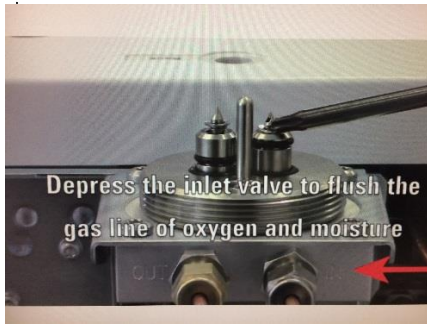
- 2) リングを回して古いフィルターを取り外します。リングには下図のような金属製の物と、グレーのプラスチック製の物がございます。



※必要によって、ベースのバルブ O リングを付属の新しい物と交換します。

- 3) 新しいフィルターをガイドピンに沿ってすばやく押し込んで、リングをしっかりと止まるまで締めます。ガスがフィルター内に流れ始めると圧がかかり、フィルター取り付けには若干の抵抗を感じますので、しっかり押さえながら取り付けてください。

※上記の方法で行った場合でも、取り付けリングがフィルター交換時にガス圧に押されて十分に締めきらない事がございます。その際は配管の元バルブを閉めてから、フィルターを外した際に見える、インレット側のバルブを(O リングが付いているニードル状の物)ドライバーの先などで押し込んで、配管内の残圧を抜いておいてからフィルターを取り付けると取り付けやすくなります。(次ページ写真参照)



4) ガスの供給圧を元の圧力に戻します(一般的に 0.5MPa~0.6MPa)。3 分程度待つて圧を安定させます。

※リークディテクターをお持ちの場合は、リング周辺からガスがリークしていないことを確認します。

5) ガスクロに分析条件を設定し、ガスを流した状態で、しばらく安定させてから使用します。
特にキャリアガスのフィルターを交換した場合は、スプリットフローを 400ml/min 程度まで上げて、5 分程度、パーズを行うと、安定が早くなります。

※パーズが不十分ですと、検出器が MS の場合、しばらく窒素が検出される場合がございます。

参照)

<http://www.agilent.com/en/products/lab-supplies/chromatography-spectroscopy/gas-management/gas-clean-purification-system/gascleaninstallation>